

(2) 編輯の大意

1. 旅団司令部

2. 独立歩兵大隊 四 (一大は二四中、179一中、2A一隊)

3. 接近大隊 一 (三中)

4. 砲兵隊 一 (三中)

5. 工兵隊 一 (二小)

6. 通信隊 一

7. 輜重隊 一 (重砲二中、自動車一中)

(3) 各部隊の概況

1. 4, 179, 2A, 工兵各部隊等は、概して不況

2. 人員は大体充足せしむるも、素行の悪し

3. 各地へ、物資の能力低下 (例へば、食糧の調達に支障あり)

4. 接近大隊は未だ神志

5. 旅団長は八月十日に、旅団司令部に報告あり

6. 大隊長は上司の指示を、厳格に遵守する

2. 砲兵隊は軽便砲台六門

(に不可欠の)

3. 通信器材不足殊に後方との連絡に困難あり

4. 各師団の整備が不十分で、特に對馬地方は三〇に達しない

5. 輸送隊には自動車等不足、其他馬車輜重も未だ乏

の甚地

2. 南方軍需工廠の整備は伊豆半島と其地域の地固一部の外未だ乏

3. 朝鮮半島に地域の地方自治団体等と司令官部との連絡は行の途切不十分

二、訓練

(1) 陣地守備隊が概ね混成旅団に改編せられ、為野戦的訓練は自営

(2) 師団或旅団の各師団の訓練は自営で行はれてゐない

三、完戦前の旅団の配備計画の概

1. 新設部隊の編成要領は國境部隊は國內部隊とは異なり、國境部隊は編成後即ち

短時に終了し、一旦優先的と認め、陣地の開墾から一時的に必要ならんことを著し

かり、ため來作戦に備ふる目的の戦斗に必要と認めて投入した

基 戦斗終過 (附圖) 東京戦斗終過

(一) 八月九日(晴)

一、八月九日(晴)敵飛行機出現後

直に對空砲を發射し、多く命中

二、九日(晴)三谷(口)田原(軍)南方(山)守可監視哨の改築を完了

直に敵の計息せる所は早と急(線)却る(と)非常(警)備(に)つ(か)し(と)早(に)上(司)に(報)告(す)

次に(全)般(の)情(況)上(司)に(報)告(せ)る(と)判(断)し(た)と(述)ぶ(る)所(が)あ(っ)た

三、防衛戦斗方針の概略

敵の攻害を陸地(す)と(近)距離(に)於(て)暴(破)す(と)共(に)該(ノ)水(は)主(と)して(遠)距離(に)於(て)戦(闘)す(と)す(る)

彈(薬)の(少)さ(を)以(て)換(取)の(能)力(に)よ(り)該(ノ)水(は)遠(距離)に(於(て)戦(闘)す(と)す(る)に(付)き(て)

直(に)由(海)軍(に)對(し)て(は)國(内)に(對)し(て)入(侵)す(と)す(る)

特に(三)谷(口)田(原)東(宮)大(塚)敵(軍)東(京)道(を)沿(て)進(軍)す(と)す(る)敵(軍)の(進)軍(を)阻(止)す(に)向(て)す(る)

の(戦)斗(準)則(を)各(方)に(示)す(と)共(に)得(て)は(る)民(生)の(救)護(を)期(す)

四、右(方)針(を)基(と)し(て)換(取)の(能)力(を)考(察)す(に)向(て)す(る)に(付)き(て) (附圖) (東京)

本報

1. 谷門子 坂廻 石塚の中流を隔り陸地に増え

2. 碓氷 各中流より上流より小橋を隔り及部亮陸地に増え

3. 碓氷を越え司々部と隔り三反口部亮一谷地を記帳不確上陸地なるに梅

成

4. 駒寄 海を以て後方より碓氷嶺峠等東也北神

5. 南余の諸部を三用山陸地にはお経

6. 部亮と三反口との間の対峙軍兵の増強等

五. 柳屋と其に我弟塚、一世山、部亮、三反口、東室、(国境守河守の首命、東室一

街等に宛められた書状

正午あたりに陸地の南より地より一部の前其側は流入

敵の飛行機は絶えず我陸地の上空を飛ぶ

六. 高野の部亮より二十師長よりた急電上の密報命令に接す

本報

『旅団は二三大、A二中、SA二中、P二小を以て部亮とする部兵を現陸地に疎開して国境を固守せしめむは大城敵支隊となり成るべく連日転進し大城敵支隊を包圍し南面

の敵を撃破すべし

新にふくむ羽流(大海)に破る天流、戦き中ほそ大堀に於て是ら後の指印に

くらしむ。

右命をまきしと云ひ終るや、其の猶、東、其地等にて地上、通信線、破壊さし、小川に

との連絡なく、杜絶す(該敵は、かく、其の後方との連絡を断つは、其の所為なり)

右命等に是をき、直に左、敵方針のもとに、~~朝鮮~~其国の如き、戦い、討事を能るし、夫れ、其の

事、其した

左記

1. 成るべく、其の流の指印を、もとに、速に、新陣地に、到着し、第五、第三、第四、の部隊、

の、陣営を、その、陣営の、留置、御、環境、

2. 転進、その、目的、の、ため、極力、在る、行動、の、利用、

3. 敵の、機甲、部隊、は、其の、行、機、の、改革、に、備、つ、た、ため、夜間、行動、し、未明、の、機甲、部隊、は、其の

り、機、の、改革、困難、なる、ため、地形、の、ある、所、に、停止、し、急、急、の、改革、を、防、ぐ、更、に、火、を、及

西、移、つ、つ、所、命、の、陣、地、に、到着、す、

其、敵の、進、め、終、り、破、壊、さ、し、終、り、

船に乗り来る。

我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため
まとして地形を利用し討賊するの外策なし

このうちに日没となり、敵は後退せしむるを以て、我軍は追ひつゝ、敵の大部を討つ

隊は空間の戦斗の結果、果ては、我軍の追ひつゝ、敵の大部を討つ

に於て、我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため

開始するを伝達せしめ、當り處を討つ。敵は後退の様を以て、日没

後、我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため

四、この日、我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため

く、旅費を改定し、^{老黒山}北東方向に移動せしむるにあり

(四) 八月十一日(回生時)

一、我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため

戦中途中、進行は、我軍の追ひつゝ、敵の大部を討つ

隊とは終日、我軍の追ひつゝ、敵の大部を討つ

この日、我軍は紅部はは鷹林相つとめし、元永^亦討賊軍と名をとり、あまふんじはきため

1835

(五) 八月十一日(晴)

三、転進部隊は日没と共に更に第百の予定線たる本陣地に向い進み及ぶ。

一、転進部隊は砲兵隊を山崎峠を越ゆるに警戒し進みし後、つりしと未だ本陣地
隊の若干枚の対砲行機等の関係上天明後途中に停止

二、旅団長は高岡の敵に対するに注意を怠らざる先行し正午頃本陣地に到着
し直に石丸若狭隊を本陣地へより大城殿到着と共に指揮下に入らし

められしおこの隊隊長(の案内にて本陣地の案内を指示す
三、偵察の結果と旅団の現有兵力を本陣地の敵情特に旅団部隊の強弱を
等を勘案したる旅団方針のもとに別隊を編成し旅団の如く部隊を指定して取り扱へる事

旅団地帯に旅団の工事より先をせしめた

〔註本陣地は二八師団の都(さき)に師団司令部より大城殿に於て旅団長の指揮下
に大いなる火(砲)相築すものにと要する砲台式の工事を行ひありしもの

本陣

一、対我軍防線に注意
二、目下工事中の陣地は旅団の現有兵力に比し過大なる付、火が通向の隘路

四、部隊を石原東方隘路を走らぬに注意して後方を掩護せしむ

五、第二三師団の戦況を告げし為師団命令に異議を呈し、大隊を増援せしむ

六、該部隊は其後、老翁峯を占領し、師団の大佐を指揮を命ぜられしに途中

停戦となりしを以て後に旅団に合流した

六年、第二三師団との有線連絡の途絶全く終り

七、はたして翌十月の将取を長とする在途隊と師団に報告せしむるに在途不可能に終る

(七) 八月十五日(晴)

前日未、春期動ありし、敵軍部は十時頃、樺太一、大城、赤坂方面より空迫し来りし、北第師団は其の密接なる偵察隊の敵に、はたし、其の部隊を、中隊、敵軍に對し強固な全滅的打撃を予へ之を要退した

(八) 八月十六日—二十日(晴)

一、各部隊は陣地の増強、其他の戦況に注意せしむ

二、十八日、赤坂方面の敵は我軍と意図し、敵隊は後方に退却せしむるに、

高き飛行機の飛来、北第にやくなった

(九) 八月二十一日(晴)

師国より流亡(時)師国は如何に彼の信託を流亡せしとの事なり(他の一紙は未考)
により信託は望する師国命令に接すると共に大詔をおし4歳の子に同様な
信託であった

こゝに於て鬼術の事(見)もあつたが(水)永世(の)生命と大詔に鑑み(り)の(命)を(通)うに
行(動)し(た)る(事)を(し)た

この信託(指)お(り)に(あ)り(し)か(ら(も)第(二)三(回)流(亡)の(事)を(想)ひ(し)神(佛)を(却)り(し)た

1839

第三 ↑ 資料の整理

(一) 戦事に関する (東宮皇支隊を除く)

一人

- 1. 戦死 約 200
- 2. 傷者 約 150
- 3. 行方不明 約 600

兵隊の遺骸

- 1. MG 24, 銃等 大隊のほとんど全部
- 2. 10H 一
- 3. 其他 若干

(二) 敵の捕虜

一人 約 200

兵隊の遺骸 戦車 八 自衛隊 若干

第四 其他一般の状況 葉常其他

(一) 在留邦人元拓者、家族の状況

一 在留邦人は九月夜占に汽車自動軍、一部は後方に牡丹江、固門、東京方面に避難した。
大部は

但し東京方面最終列車に避難せしものは八月十日天明経路附近に於て敵戦軍の攻撃を受けこむなく散散と山甲に分散し、食糧、物資の困難をなめつ、後方に退つた。

二 關東軍(自軍)増援のほらんど、向つて居らなかつた。一部は我軍増援の増強に協力して旅団主力と協同して行動を共にし、其他は後方に避難したやうである。

三 軍人の家族は元拓者、元拓地内には避難せしもの、増援の状況の推移を思ひ、八月九日午後トウラにて東京方面に避難し、来るべき避難せしめた。

四 朝鮮人は従来日本への貢献をかりて、朝鮮の急なきにもあらざりしる之小が、戦後、彼等を救ふにありしは、大部は残る、一部は朝鮮に向ひ避難したやうである。

(二) 在留邦人の家族、元拓者、元拓地内には避難せしもの、増援の状況の推移を思ひ、八月九日午後トウラにて東京方面に避難し、来るべき避難せしめた。

第五 ↑

其五 終戦時の状況

(一) 態勢の益鈍力

一 終戦時の態勢

力阿国がわくである

2. 却下し、その結果、敵軍の攻め方により一寸の土地も本陣地を敵に奪せざり
こと、態勢の益鈍力、敵軍の攻め方により一寸の土地も本陣地を敵に奪せざり
こと、態勢の益鈍力、敵軍の攻め方により一寸の土地も本陣地を敵に奪せざり

二 戦力

敵軍の戦力は戦中、約三分の一低下したが大城郡に陣地を設け、
その戦力は戦中、約三分の一低下したが大城郡に陣地を設け、
その戦力は戦中、約三分の一低下したが大城郡に陣地を設け、

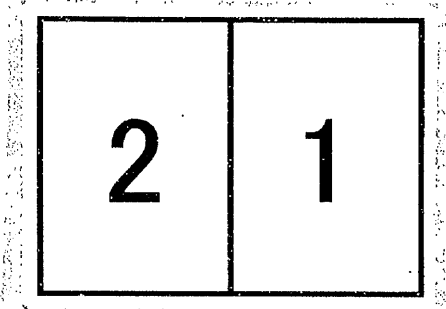
と、戦力

(二) 蘇軍との交渉

八月二日、佐野の義らで停戦に基く師命令により、北条は成るべく、
八月二日、佐野の義らで停戦に基く師命令により、北条は成るべく、
八月二日、佐野の義らで停戦に基く師命令により、北条は成るべく、

と、戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、
と、戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、
と、戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、南軍の戦力、

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	独立混成第132旅団作戦経過要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

